

# 主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名		部名	生活文化部	
	17039	鈴鹿関跡学術調査事業		課名	文化スポーツ課 まちなみ文化財G	
	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		財務科目	会計	01:一般会計
	基本施策	10:歴史文化の継承・活用			款	10:教育費
	施策の方向	01:文化財の保存・継承と活用			項	05:社会教育費
戦略プロジェクト	-		目		05:遺跡調査費	
事業予定期間	H 18 ~ R 4 年度	主な根拠法令要綱等	文化財保護法、三重県文化財保護条例、亀山市文化財保護条例			

目的・概要	対象	市民、土地所有者、来訪者、開発事業者	
	目的	平成18年度～26年度に実施した鈴鹿関跡範囲確認調査では、鈴鹿関の西端を区画する西外郭構造物の存在と、その位置の確認を行うことができた。平成29年度から実施している学術調査専門委員会の指導に基づいた学術調査を引き続き行い、文化財的価値を明確にし、国史跡指定を目指す。	
概要	学術調査専門委員会の指導に基づく発掘調査を実施し、調査報告書として取りまとめ、令和2年度に鈴鹿関跡(北側)の史跡指定の申請(意見具申)を行い、国史跡指定を目指す。また、引き続き、鈴鹿関跡(南側)の追加史跡指定に向け発掘調査を実施する。		

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
年度計画	発掘調査(補足調査)の実施		発掘調査(補足調査)の実施	発掘調査(補足調査)の実施	
	学術調査専門委員会の開催		学術調査専門委員会の開催	○学術調査専門委員会の開催	
年度実績	発掘調査(補足調査)の実施		学術調査専門委員会の開催 1回	○鈴鹿関跡の現況地形測量調査	
	学術調査専門委員会の開催 4回		額津調査専門委員現地指導 2回	○出土遺物整理業務	
事業の計画・実績	計画額	事業費	4,200千円	2,600千円	8,700千円
		国庫支出金	1,600千円	1,000千円	3,500千円
		県支出金		230千円	0千円
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	3,900千円	2,860千円	
		国庫支出金	1,263千円	1,430千円	
		県支出金			
		地方債			
		その他			
決算額	事業費	3,231千円	2,650千円		
	国庫支出金	1,263千円	1,325千円		
	県支出金				
	地方債				
	その他				
人件費	総人件費	2,355千円	1,568千円	0千円	
	一般職員	2,355千円	1,568千円	0千円	
	所要人員	0.30	0.20		
	会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円	
総コスト( + )		5,586千円	4,218千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

			令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	鈴鹿関跡(北側)史跡指定に向けた取り組み	計画値 発掘調査	意見具申	
			実績値 発掘調査	意見具申	
			単位		
	名称	鈴鹿関跡(北側)史跡指定	計画値		指定
			実績値		指定
			単位		
名称	鈴鹿関跡(南側)史跡指定に向けた取り組み	計画値		発掘調査	
		実績値		発掘調査	
		単位			

事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 観音山南西麓及び城山南西部で確認された遺構の連続性や古代道路の位置等、これまでに指摘されている一部不明瞭である専門的な価値付けについて、引き続き明らかにする必要があるため、過去に実施した第1次調査から第8次調査までの成果の再評価を行い、総括報告書を作成する。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 第1次調査地及び第9次調査地を中心とした範囲について、国史跡指定への意見具申を行った。学術調査専門委員会や現地指導においていただいた指導内容等に基づき、総括報告書の作成を進めた。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 学術調査専門委員会を1回、同専門委員の現地指導を2回実施し、それらの指導及び県教育委員会の助言に基づき、総括報告書の作成を進めた。	A  計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 学術調査専門委員会委員の指導や県教育委員会の助言に基づき、総括報告書の作成が進んだ。 令和2年度中に国の史跡指定への意見具申をしていた鈴鹿関跡の一部が、令和3年3月26日付けで国の史跡に指定された。	A  十分な成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 今回、国の史跡に指定された範囲は、鈴鹿関跡の北西端の極一部分だけであるため、鈴鹿関跡の全容解明に向けて引き続き範囲確認調査を継続する必要がある。	今後の方向性  <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他  【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 全容解明に向けて、引き続き範囲確認調査を継続していくが、まずは、指定範囲で確認された鈴鹿関西辺築地塀が南方へどのように延伸するのかを確認するための範囲確認調査を実施し、遺構の連続性を確認し、その成果をもって国の史跡指定範囲の拡大を目指す。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 鈴鹿関の遺構の連続性等、これまで一部不明瞭であった専門的な価値付けが明らかとなることで、国の史跡範囲の拡大が図られ、全容の解明への大きな前進となる。	
対応時期		令和3年度～	

【1次評価者】	生活文化部 文化スポーツ課 まちなみ文化財グループリーダー 山口 昌直
【最終評価者】	生活文化部 文化スポーツ課長 小森 達也

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	B	B	A	A	
	成果	B	B	B	A	

令和2年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		2,860 千円
内訳	令和元年度からの繰越額	千円
	令和2年度の最終予算額	2,860 千円
	令和3年度への繰越額	千円